



営農NEWS



抑制や促成トマト栽培における黄化葉巻病の防除を徹底しましょう

トマト黄化葉巻ウイルスを媒介するタバココナジラミ類の施設への侵入を防虫ネットの展張などで阻止し、さらに殺虫剤による防除を徹底して、発病を抑制しましょう

また、発病株を早期に適切に処分し、産地における伝染源の撲滅を図りましょう

(発病が確認された株は早急に抜き取り、施設外に持ち出し、ビニール袋内などで腐熟させるか、土中深く埋めるなど適切に死滅処分します)

[総合防除のポイント]

トマト黄化葉巻病のウイルスを媒介するタバココナジラミ類を防除する基本として、施設内に虫を①入れない、②そこで増殖させないことが重要です。①の施設に入れない対策としては、出入口や天窗・側窓など施設の開口部に防虫ネット(目合い0.4mm以下)を設置します。また、害虫の飛来源、ウイルスの保毒源となる施設内や周辺の雑草や野良生えトマトは、常に除草や抜き取りを徹底してください。なお、施設内へは栽培トマト以外の植物などを搬入、栽培しないことが重要で、これらの植物とともに害虫を持ち込む危険性があります。

次に、②の施設内でタバココナジラミ類やウイルスを増殖させない対策としては、育苗期や定植時に粒剤や灌注剤を処理し、さらに栽培中はトマトを注意深く観察して早期発見に努め、早期防除や発病株の処分を徹底します。また、施設内に黄色の粘着トラップを設置してコナジラミ類を誘引し、密度の抑制を図るほか、薬剤適期防除の目安にします。薬剤は下記の表1を参考に作期全般における総使用回数を考慮して選択し、また抵抗性害虫の出現を防ぐためローテーション散布が必要です。

さらに、③栽培終了後の対策としては、施設内の害虫が逃げ出す前にハウス内の蒸し込み処理(営農ニュース第2881号6月24日発行)などで死滅させて、施設周辺におけるコナジラミ類などの密度低下を図ることが必要です。コナジラミ類は飛翔しますので、周辺を含め地域全体での連携した共同防除が重要になります。

表1 トマト、ミニトマトにおけるコナジラミ類の主な防除薬剤

(令和3年7月7日現在)

薬剤名	対象作物		使用量または希釈倍率	使用時期/使用回数	分類
	トマト	ミニトマト			
ベストガード粒剤	○	○	5g/育苗培土10 混和	播種時または鉢上げ時/1回	4A
	○	○	または 1~2g/株 株元処理	育苗期/1回	
	○	○	または 1~2g/株 植穴処理土壌混和	定植時/1回	
ベリマークSC	○	○	25ml/400株 (水10~20l/400株に希釈した薬液を25~50ml/株) 灌注	育苗期後半~定植当日/1回	28
スタークル顆粒水溶剤	○	○	100倍 鉢成型育苗トレイ1箱またはバーボット1冊(30x60cm、使用土壌約1.5~4l) 当り0.5l灌注	鉢上時または定植時/1回	4A
	○	○	2,000~3,000倍	収穫前日まで/2回以内	
グレースシア乳剤	○	○	2,000倍	収穫前日まで/2回以内	30
ディアナSC	○	○	2,500倍	収穫前日まで/2回以内	5
アニキ乳剤	○	○	1,000~2,000倍	収穫前日まで/3回以内	6
トランスフォームフロアブル	○	○	1,000~2,000倍	収穫前日まで/2回以内	4C
コルト顆粒水和剤	○	○	4,000倍	収穫前日まで/3回以内	9B
コロマイト乳剤	○	○	1,500倍	収穫前日まで/2回以内	6

注) 分類欄には、IRACコードを記載しました。同一分類(コード)は作用点が同じなので、連用は避けてください。

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。



農機営農支援部 営農支援課

電話: 029-291-1012 FAX: 029-291-1040